

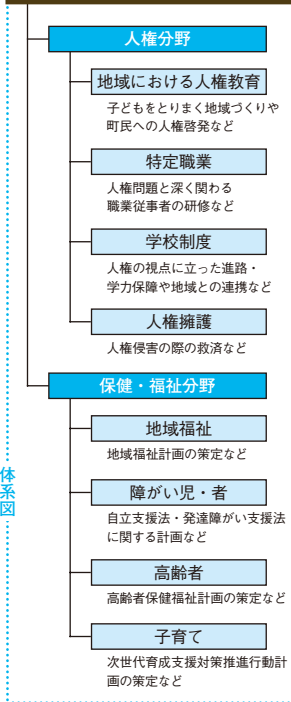
# 「人権と福祉のまちづくり総合計画」の姿

▼12月4日から10日までの人権週間。町内では人権に関する啓発行事や相談事業などが行われました。メイン行事となった「人権と福祉のまちづくり講演会」では、福岡県立大学の豊田謙二教授が「福岡町人権と福祉のまちづくり総合計画」のアンケート結果を説明。行政主導ではなく、公募による住民参加型で進める計画づくりについて、その概要と今後わたしたちに求められる人権意識について語りました。



↑12月8日に地域交流センター（伊方）で行われた「人権と福祉のまちづくり講演会」。およそ300人が参加し、資料を手に理解を深めました。

## 人権と福祉のまちづくり総合計画(案)



## 「人権と福祉のまちづくりに向けて」

講師 福岡県立大学 豊田謙二教授 (講演の概要)

**日** 本の高齢化は、これからどんどん加速していきます。2050年くらいになると、3人に1人が65歳以上という社会になります。しかし、そこで話は終わらない。これから百年間、このような高齢化の時代が続いていくのです。やがて、今までの世界史上では考えられない、すごい社会が訪れてきます。ということは、この先、ほとんど、

のかたがお年寄りとなる社会になると考えていいのです。その時、まわりを見渡すと、お年寄りに、まだまだ若い人がいるという感じですが、今からの百年間、このような状況を念頭に置きながら、サービスや施設など、いろいろな事を変えていく必要に迫られてきます。ドイツでは、大学の入学金も授業料も学生の自己負担はわずかです。

学生が奨学金を受けつつ、生活費をアルバイトで稼いで学びたいことを学んでいます。つまり「自立」できているということですが、「しかし、日本ではそれが難しい。親の援助なしには、なかなか一人では生きていけない。だからだれにも頼らずに自分で決めて、自分で生きていく」「自己決定」ができないのです。例えば、結婚も「個」と「個」ではなく「家」

と「家」との結びつきが強いですが、我々でさえ「自己決定」「自立」ができないのに、障がい者の人たちにとつての「自立」は、さらに難しいと言えます。

「人」という字で言えば、支えの部分。そこに公や社会の支えがないと自立は困難です。日本はどうか不安な社会でありながら、公的な支えがないから家族に頼らざるをえない。学生も高齢者も1人での生活はリスクが多すぎます。日本での生活は、家族から離れられないものになっているのです。そこで、福岡町の「人権と福祉のまちづくり総合計画」の中には、この「個を支える」という部分を重視していかなければならぬと思うのです。

福岡町の住民アンケートの結果で示されたように、我々は「差別がある」という現状を肝に銘じて、これをなくしていかなければなりません。計画は作る過程も大事ですが「どうやって実施していくか」という点で、住民と行政とが、いかに手を合わせられるかも重要だと思っています。

人権を語る時、わたしが好きな言葉が、フランス革命後の1789年に出された「フランス人権宣言」です。「人は生まれながらにして自由かつ平等である」という言葉。例えば、日本国憲法では「日本国民は」です。それを日本が江戸時代だったころ、すでに「人は」と表している。「だれでも」という感覚です。



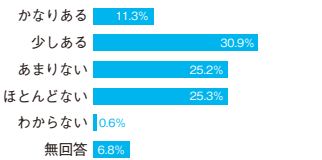
Kenji Toyota

しかも「自由」だけでなく「平等」がそこに入っています。わたしは、人権が保障されているということは「幸せになること」だと思っております。わたしたちは幸せになるために生きている。その「人が幸せになる」ということを決して妨害してはならないのです。それが人権を守るということだと、わたしは思います。だからこそ、わたしたちに何かあったときの相談窓口、一人ひとりが幸せになるために救済する方法を考える制度が必要になってきます。この点においても現在「人権と福祉のまちづくり総合計画」の中で議論しています。

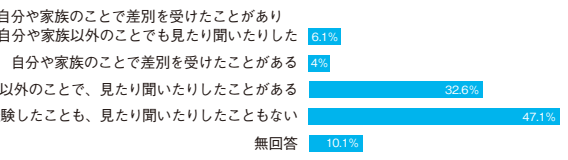
わたしのことを「先生」と呼びます。日本では、英語の「YOU」的な表現があまりできない。女性のかたでは「夫」のことを「主人」と呼ぶ人もいます。「夫」に対する言葉は「妻」ですが、「主人」に対する言葉はありません。「お兄ちゃん」は「ちやん」がつけますが、「弟ちゃん」とは言わずが、小さい言葉の問題ですが、わたしは言葉から見直さなければ、意識も変わらなないと考えています。日常の言葉でも注意しながら「平等」ということをどう実現していくか、どう言葉で表現していくかが、とても大事だと思います。

▼このようなことを考えながら、みなさんには計画づくりに参加し、関心を持っていただきたいと思いますし、実行するにあたっては、ぜひ一緒に進めて、いい町にしていきたいです。

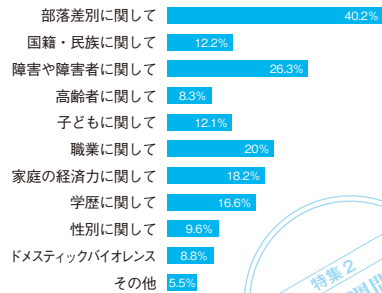
### 問 福岡町ではまだ部落差別がありますか



### 問 差別を経験したことがありますか



### 問 経験した差別の内容は



▶4200人の住民を対象にした福岡県立大学・豊田謙二教授の社会原論演習で行ったアンケート集計がほぼ終わり、現在、分析作業が進められています。回収率は86%で、3600人のみなさんの回答をいただきました。今回、その結果の一部を掲載しましたが、このことから福岡町内にも差別が根強く残っていることが分かります。「合併に関する住民アンケート」の結果も合わせて、本年度中に報告書がまとめられる予定です。内容は「広報ふくち」でも掲載する予定です。▶なお「自立支援フォーラム」を1月27日(日)に開催、「人権と福祉のまちづくり総合計画中間報告会」を1月28日(月)に開催する予定です。詳しくは折り込みのチラシ案内をご覧ください。

### アンケート分析中